

下関西高校へ入学した君たちへ。高校総体、高校総文、旭陵祭と校内外の行事で活躍し、それが終われば、すぐさま期末考査と西高生は本当に忙しい日々を追われています。ただ、その中でも自分で時間をコントロールして、高校生としての土台を積み上げていってくれることを期待しています。

さて、今回は入学間もなく実施したスタディサポートの結果について、分析したものを一部ではありますが、報告したいと思います。本当はもっと早く君たちに知らせればよかったかもしれませんが、この時期に提示することで、君たちにはもう一度、個人成績表を取り出して、現在の状況と比較しながら点検して欲しいと考えています。もちろん、これは中学段階の学習習慣や国語・数学・英語の学力到達度をチェックしたのですが、それに視線をきちんと向けると同時に、今後、自分は何ができるか、何をすべきかをしっかりと考え、判断し、優先順位をつけ、改善すべき点について早急に取りかかってください。スタディサポートはそのための重要な教材であると再認識をしてください。さらに、学習状況リサーチと学力リサーチの冊子も準備し、特に学力リサーチについては当時、できなかった問題にもう一度、取り組んで欲しいと思います。以上のことを完璧に実行すれば、100日後からじわじわと学習成果が現れることは間違いありません。そして、疑問に思うことや迷っていることがあれば、担任や副担任、学年主任や教科担当の先生方に面談をしてもらってください。もちろん、私のところに相談に来ても構いません。遠慮は無用です。

いずれにしても、『Time is Money～時は金なり。時間は財産！』

であることを忘れないでください。

1. 学習到達ゾーン（GTZ）推移について（学力リサーチより）

年度	2023 第1回		2022 第1回	
学年	高校1年生		高校1年生	
人数	210		210	
国数英 校内平均正解率	65.8%		69.4%	
平均 GTZ	A3		A2	
満点	300		300	
ゾーン(人)	単純	累積	単純	累積
東大・京大合格レベル(S1)	4	4	0	8
難関大合格レベル(S2・S3)	17	21	2	42
難関大挑戦レベル(A1)	33	54	32	86
国公立大合格レベル(A2・A3)	90	144	84	162
国公立大挑戦レベル(B1・B2)	58	202	22	205
4年制大挑戦レベル(B3～C2)	8	210		210
基礎力養成レベル(C3～D3)				

(概況)

今回(2023年度)の学力GTZを見ると、難関大合格レベル以上(S1～S3)は21名です。また、国公立大学合格レベル(A1～A3)は123名、国公立大学・中堅私立大学挑戦レベル(B1～B3)94名で、まだまだ上位層が薄いことが理解できます。ただし、今回の学力リサーチは中学校終了段階

(次ページへつづく)

の君たちの国語、数学、英語に関する学力を幅広い範囲から知識と思考に分けて出題されています。繰り返しになりますが、個人成績表で科目ごとの理解ができていて、できていない領域を分類して次の学習に取り組む手がかりにしてください。今回の学習リサーチの結果は全体としては厳しいものとなりましたが、コロナ禍の影響も多少はあったと推測しています。期末考査が終わり、上手いかずに悩んでいる生徒もいるかと思いますが、次のステップアップに向けて前向きに実践していきましょう。

2. 学力・学習バランス 3教科（国語・数学・英語）総合

学力の到達度	S1～A3 国公立大 合格レベ ル以上	タイプ① 78人（前年86人） 学力◎学習▲ 学習「要注意」型 学習スタイルの定着が必要	タイプ③ 66人（前年76人） 学力◎学習◎ 高校生スタート「順調」型 高校生活スタートは順調
	B1～D3 国公立大 挑戦レベ ル以下	タイプ② 45人（前年28人） 学力▲学習▲ 高校生スタイル「要確立」型 高校生の学習スタイル確立必要	タイプ④ 21人（前年20人） 学力▲学習◎ 学習「要認識チェック」型 学習状態の認識確認が必要
		国公立大挑戦レベル以下	国公立大合格レベル以上
学習習慣の到達度			

（概況）

前年と比較すると学習習慣の定着が必要な①の学年全体に占める比率は 41.0%から 37.1%と微減。学力到達レベル・学習習慣ともに厳しい状況にあるタイプ②は 13.3%から 21.4%と大幅アップ。学力到達レベル・学習習慣とも順調なタイプ③は 36.2%から 31.4%と大幅ダウン、学習習慣は良好だが学力到達レベルが低いタイプ④は 9.5%から 10.0%と微増となっています。特にタイプ②の生徒が多いのがとても気にはなりますが、成績が向上する生徒はタイプ②→タイプ④→タイプ③のプロセスを辿るのでまずは正しい学習習慣を身につけることが条件となります。

3. 学習時間について

今年の平均学習時間 平日101分 休日186分

昨年の平均学習時間 平日105分 休日172分

（概況）

これは学習時間の比較です。調査は中学段階なので、やむを得ないとは思いますが、まだまだ少ないです。では、現在はどうでしょうか？学習時間の最低目標値は1学年では平日180分、休日240分ですが、これは最低値です。今後に向けて、クラスメイトと切磋琢磨しながら全員で学習時間を増やし

（次ページへつづく）

てください。また、その一方で、規則正しい生活リズムを確立することも重要です。起床、帰宅、就寝時間を固定し、睡眠時間も最低6時間は確保してください。こうなると平日はかなりタイトなスケジュールにはなりますが、スマホに触れる時間を0に近づけることで確保できます。これから夏季休業を迎え、蒸し暑さも手伝い、生活リズムが崩れやすい時期となりますが、家族の助けも借りながらしっかりと1日のタイムマネジメントをしてください。

4. 各教科の学習リサーチの結果について

国語を得意教科と思っている生徒は7.1%（前年6.4%）、苦手教科と思っている生徒は28.1%（前年34.3%）で昨年より苦手意識を持っている生徒は少ないです。しかし、平日、国語の学習をほとんどしないと答えた生徒が54.3%と多いのが大きな課題です。さらに、本や新聞をよく読む生徒は12.9%（前年7.1%）と寂しい数値となっています。君たちにはこれらの状況を改善し、自分に適した方法を模索しながら、学力向上を考えていく必要があると思います。特に文理選択で理系や自然科学を考えている生徒に伝えておきたいことは、将来の君たちに突き付けられる現実として自分の研究成果の評価においては論文で行われることが多いという点です。その為には他人が書いた文章を正確に読解することや説得力のある論文を書くための基礎学力を高校時代にも身につけておく必要があるのです。古文・漢文については、今まで宿題にはきちんと取り組んできたようですが、予習の習慣が身につけていないようです。中学時代に予習を要求されていない生徒が多かったことが理由かもしれませんが、高校では古文・漢文の学力向上は文系理系志望に関係なく非常に重要になってきます。学習方法を含め、先生から指示された内容に沿って学習を進めた後、自力でも学習できるようにしてください。

次に数学ですが、得意教科と思っている生徒は21.0%（前年18.6%）、苦手教科と思っている生徒は36.2%（前年34.3%）で苦手と思っている生徒が少し多いのが気になります。数学は文理選択で理系を選択する予定の生徒は数学Ⅲを、文系は数学Ⅱ・B・Cを受験直前まで絶対にあきらめないメンタリティを身につけることで君たちが納得できる進路実現に近づいていきます。また、問題を解く際には、その問いの意味を背景含めて理解し、不明な点についてはクラスメイトなど周囲に躊躇せずに質問する、教えあう学びあうという雰囲気を作り出してください。この姿勢をホームルーム、部活などの場面や友人との人間関係において持ち続けて欲しいと思います。

英語については、得意教科と思っている生徒は29.5%（前年26.2%）で現2年生よりポイントは高いですが、苦手教科と思っている生徒が16.7%（前年9.5%）と今年度は大きく増加しており、そのことが心配であると思っている生徒も51.4%（前年41.9%）と半数以上が英語に不安を感じている点が気になります。英語は文系理系志望ともに大学受験では最重要と言って良い教科です。美大や音大などの芸術系やスポーツ系の大学でも実技に加え、受験科目として課されるケースがほとんどです。特に看護系などでは全体の配点に対する比率も高く、九州大学医学部保健学科看護学専攻の一般選抜では全体の配点850点に対して英語の配点が300点と全体の35.2%を占めており、入試の合否の大きなポイントが英語の学力向上にあることは間違いありません。看護系志望の生徒に関わらず、大学受験をする以上は英語から逃げられません。残念ながら英語をほとんどしないと答えた生徒が23.3%（前年20.5%）もいました。現在は劇的に変化していることを期待していますが、敢えて確認させてください。高校では毎日、必ず英語の学習時間を確保すること。これを優先順位1位と位置付けて取り組んでください。取り組む内容については担当の先生方に質問するのがベストです。まだまだ、十分に間に合うので絶対に

諦められないでください。**「諦めたらそこで終了ですよ」**

5. その他

①希望進路について

希望進路	
国公立大	70.5%
私立大・大学校	1.4%
国公立大・私立大未定	16.7%

進路希望詳細において、希望進路を「国公立大」とした生徒が70.5%と前年より2.8ポイント減少している点がトピックとしてあげられますが、それ以外は大きな変化はありません。国立大学、私立大学のどちらを志望するにしても目標を自分の現状よりも高い大学を目標にする生徒が学習成績を向上させているのが最近、顕著に表れている全国的な傾向です。まだまだ大学について未知の点が多い1年生には是非とも高い志望を掲げて日々の学習に取り組んで欲しいと思います。

②自学自習について

自主学習についての現在の状況	2023年	2022年
宿題は必ずやっている	50.0%	46.7%
余裕があり宿題以外の学習も取り組んでいる	41.0%	36.7%
学習時間が確保できない	2.9%	6.7%

(次のページへつづく)

自主学習についての現状は「宿題は必ずやっている」が50.0%と前年よりも3.3ポイント増加していますし、「余裕があり宿題以外の学習も取り組んでいる」が41.0%とこちらも前年より4.3ポイント増加しています。今後の自学自習の更なる充実を期待したいと思いますし、自学自習の場として旭陵館を用意しています。こちらも効果的に活用してください。

③合格者のデータから見た学力層ごとに身につけておきたい学習行動と1年秋時点の目標

難関大合格レベル（Sゾーン）を目指すために必要な学習行動とは？
予習をして授業ではその考え方を学ぶといった「仮説を立てて検証する」学習ができるとともに、学習に優先順位を付けることができる学習行動を身につける
これを地道に実行すれば、ハイレベルの思考力が向上し、徐々に国数英総合でGTZ（学力）がS3以上になる

国公立・中堅私立大合格レベル（Aゾーン）を目指すために
テストの見直しなど失敗から学ぶ学習ができるとともに、問題解法などが自分で活用できる学習行動を身につける
これを地道に実行すれば、標準レベルの思考力が身につく、国数英総合でGTZ（学力）がA3以上になる

以上です。今後の君たちの適切な頑張りが学力向上に繋がることを大いに期待しています。

(文責・進路指導部 松村)